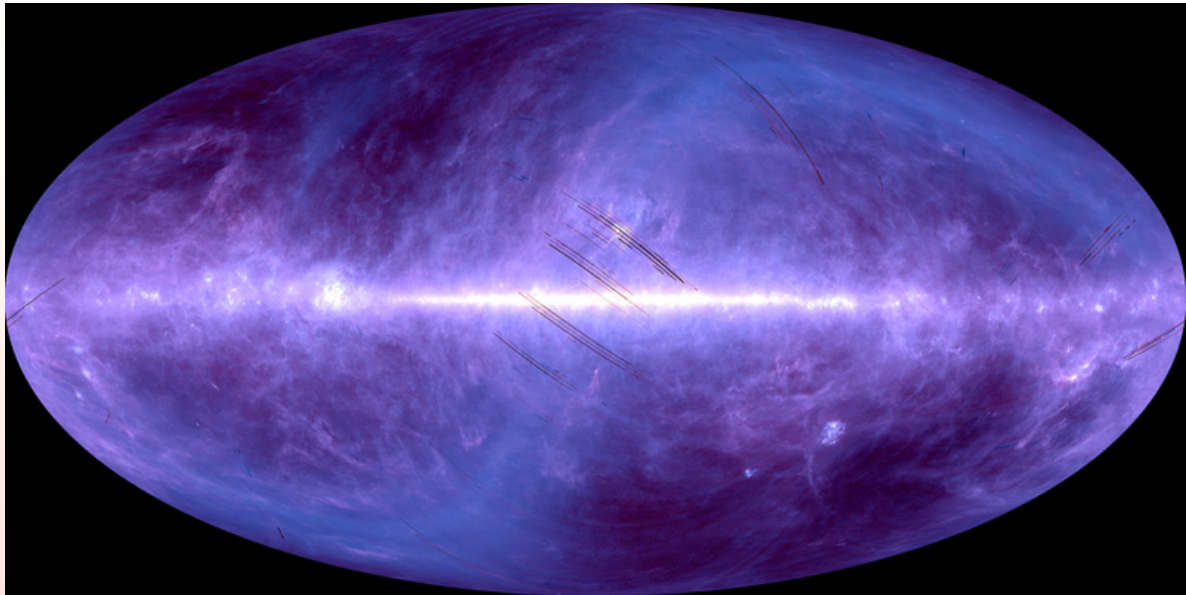


赤外線天文衛星「あかり」の観測データで約20年ぶりに刷新！ これまでより4~5倍も高精細な全天画像が公開



「あかり」の観測した全天の遠赤外線画像。中央に水平に伸びるのが天の川。色が青い部分ほどより温かい星間物質（星の材料となるチリやガスの意）、赤いほどより冷たい星間物質の存在を示す。星間物質が温かい領域ほど、そこでより多くの新しい星が生まれつつあることを示す。※画像中の黒いスジは「あかり」で観測されなかった残り1%未満の領域

星や惑星の誕生の様子を調べるなど、天文学の非常に広い範囲の研究に貢献することが期待される

赤外線天文衛星「あかり」の観測データを用いて東京大学・土井靖生助教らが作成した新しい遠赤外線の画像データが、世界中の研究者に向けて公開されました。

これまでの遠赤外線全天画像と比較して解像度が4~5倍向上したほか、従来よりも長い波長の赤外線の観測データも反映されており、星間物質の温度や分布を正確に測定し、生まれつつある星の数と分布を知ることができるようになりました。

遠赤外線は星や惑星の誕生の現場、活発な星が誕生している銀河やはるか彼方の銀河を調べるために重要な波長帯で、このデータを利用して天文学の様々な分野での研究が進んでいくことが期待されています。

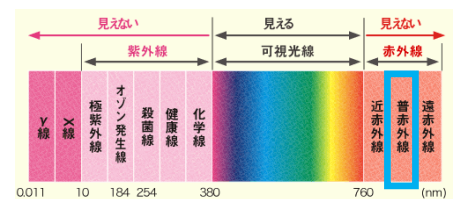
「あかり」が観測した天の川



「あかり」が観測した天の川付近の拡大画像
明るく輝く新しい星が誕生しつつあることがわかる



赤外線天文衛星「あかり」(2011年運用終了)
日本初の本格的な赤外線天文衛星で、空全体にわたって星や銀河などすべての赤外線源を調べあげる「サーベイ観測」を主な目的として運用された。



【遠赤外線】

目で見える赤い光よりも波長が長い電磁波で、人の目では見ることができない4~1000μmの波長の光のこと。電波に似た性質も持つ。暖房・身体への温熱効果・食品加熱等、様々な方面で活用されている

さらに詳しく知りたい方はコチラ



<http://rikanet2.jst.go.jp/contents/cp0320/start.html>



わたしのかつやくがマンガになりました。ぜひ読んでください♪

<http://www.ir.isas.jaxa.jp/AKARI/Outreach/>

Space i 宇宙かわら版 2015年1月23日号

問い合わせ先：Space i事務局（一般財団法人日本宇宙フォーラム）

ホームページ：<http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ：<https://www.science-event.jp/event/spacei/contact/>

※特に断りのない限り日付は日本時間です。画像の出典：JAXA/ISAS、東京大学、筑波大学、東北大学、RAL/Open University

